

2024年からNISAが 大きく変わります!

人生100年時代の
ライフプラン・資産形成に

ニ ー サ

NISA

が いい さ !!

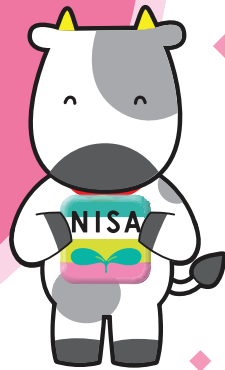


NISA口座で購入した上場株式や株式投資信託等の配当金及び売買益等は非課税になります。
長い人生、より充実させていくためにはお金が必要、そのためにも資産形成が重要。
NISAは少額から無理なくコツコツ証券投資ができるため
資産形成にぴったりの制度です。

始めるなら証券会社へ



NISAの 3つの いいさ!



2024年から NISAが大きく 変わります!

いいさ!

1

配当金や売買益が**非課税!**

NISA口座を通じて上場株式や株式投資信託等に投資すると、
本来は20.315%課税される配当金及び売買益等が非課税でお得!



いいさ!

2

制度が**恒久化!** 非課税保有期間が**無期限化!**

2024年から制度が恒久化・非課税保有期間が無期限化されます。
国民一人ひとりが、**生涯にわたって安定的に
資産形成しやすい制度**になりました!



いいさ!

3

人生100年時代、自分自身のライフプランに 合わせた**資産形成が可能!**

2024年から始まる新しいNISAでは、
今までの「つみたてNISA」を引き継ぐ「つみたて投資枠」と
「一般NISA」を引き継ぐ「成長投資枠」の両方が利用できます!
NISAの非課税保有限度額は再利用できるので、様々なライフステージに
合わせて資産を積み立てたり取り崩したりしながら、資産形成ができます!



つみたて投資枠

「つみたて投資枠」の対象商品は長期・積立・分散投資に適した株式投資信託に
限定されているので、**初めての人でも投資を始めやすい**です!

成長投資枠

「成長投資枠」は、**一人ひとりの目的に合わせた自由な投資が可能**です。個別
株投資で配当金や株主優待を得る、興味のある会社を投資で応援する、退職金
等のまとまった資金を運用する等使い方は様々です。

2024年からの新しいNISAの制度概要

	つみたて投資枠  初心者にも オススメ!	成長投資枠  会社を応援したい、 株主優待を楽しみたい という方にもオススメ!
制度期限 (買付可能期間)	なし	
非課税保有期間 (投資したものを非課税で持てる期間)	無期限	
年間投資枠 (年間で購入可能な金額)	120万円	240万円
非課税保有限度額 (NISA口座で保有できる 上場株式等の残高の上限)	1,800万円 (成長投資枠はうち1,200万円まで) NISA口座で保有する上場株式・株式投資信託等を売却したら、 その分、非課税保有額が減少します。減少した分を新たな 投資に利用できるのは翌年以降です。	
対象商品	長期の積立・分散投資に 適した一定の株式投資信託	上場株式・ 株式投資信託等*
買付方法	定時・定額の積立投資	制限なし
対象年齢	18歳以上	

※①整理銘柄・監理銘柄、②信託期間20年未満、毎月分配型の投資信託及びデリバティブ取引を用いた一定の投資信託等を除外

NISAで 資産形成!



人生100年時代の
ライフプランに合わせた
投資が可能

↑
金融資産

例えば…

NISAでコツコツ
積立資産形成スタート
つみたて投資枠

資産を売却し、趣味やライフイベント
(結婚・子育て・マイホーム)に!

資産を売却し、
学び直したり、
起業にチャレンジ!

若年層を中心とした資産形成の実践

現役層におけ

年

活用例 〈全世代にぴったりの資産形成〉

■ つみたて投資枠 ■ 成長投資枠 ※あくまで一例で

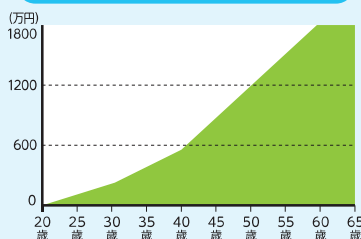
今は使うお金が多いから少しずつ、余裕が出てきたら多めに、年齢に合わせてコツコツと資産形成したい

20歳



- 1 20歳から月2万(年24万)円、30歳からは月3万(年36万)円、40歳からは月5万(年60万)円を60歳まで積立投資した場合

40年間(20歳～60歳)



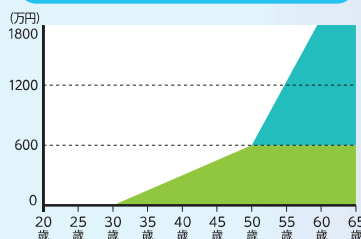
今はコツコツ定額で積み立てていって、余裕の出る50歳くらいに上場株も買って資産形成したいな

30歳



- 2 30歳から月2.5万(年30万)円をつみたて投資枠で、50歳からは月10万(年120万)円を成長投資枠で60歳まで投資した場合

30年間(30歳～60歳)



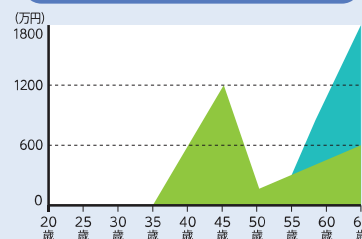
資金を貯めて、40代のうちにもう一度学校に行って学びたい! 落ち着いたらいろんな投資にもチャレンジしたいな

35歳



- 3 35歳から月10万(年120万)円を45歳まで積立で、学びなおしの資金に使った後、積立投資を継続、55歳からは成長投資枠も利用した場合

30年間(35歳～65歳)



NISA口座で保有する上場株式や株式投資信託等を売却した場合、その買付額分だけ非課税保有額が減少しますが、減少した分は翌年以降、新たな投資に利用可能となるため、ご自身のライフプランに合わせて積み立てたり、取り崩したりすることが可能です。



柔軟な利用

退職(準備)世代を中心とした資産運用

年齢

※非課税保有限度額(1,800万円)を使い切る必要はありません。ご自身のライフプランに合わせた金額で自由に資産形成ができます。

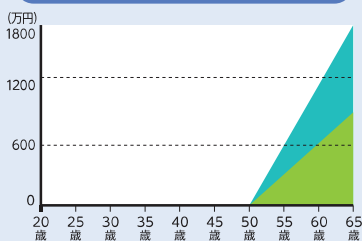
定年までに余剰資金で資産形成をしたい
上場株式も買って配当ももらっていきな



50歳

4 50歳から65歳まで月5万円(年60万円)を積立投資、月5万円(年60万円)を成長投資枠で投資した場合

15年間(50歳~65歳)



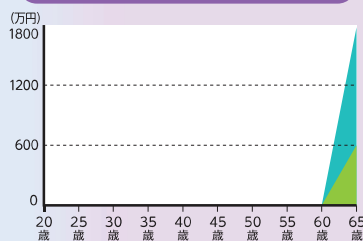
退職金で手持ちのお金が増えたから、資産形成をしたい



60歳

5 退職金等を原資に60歳から65歳まで年120万円を積立投資、年240万円を成長投資枠で投資した場合

5年間(最短)



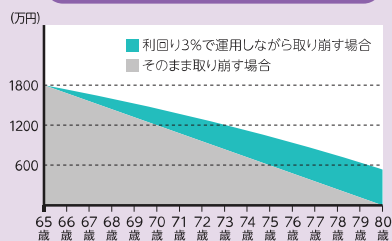
資産を長持ちさせたいから、生活資金に使いつつ資産運用も続けよう



70歳

6 65歳以降、1,800万円を毎年120万円ずつ15年間取り崩す場合

15年間(65歳~80歳)



NISAで、 長期・積立・ 分散投資



証券投資って
なんだか不安…。
そんな人におすすめ!

証券投資にはリスクがつきもの。
リスクとうまく付き合うための方法
「長期・積立・分散」投資をご紹介します。

【 長期投資 】

金融商品の価格変動に一喜一憂せず、長い目で保有し続ける方法です。金融商品の価格は上がったたり下がったりと変動します。一時的に下がっていたとしても、長期で見ると上がることもあります。また、金融商品を長期で保有することによって、配当金等を繰り返し受け取ることができたり、保有し続けることで売買にかかる手数料等も不要になります。

長期保有で
安定した運用が
期待できる



【 積立投資 (定時・定額購入方法) 】

毎月、定期的に、1,000円など一定金額ずつ買い付ける方法です。株価(基準価格)が安い時は多く、高い時は少なく購入することになり、結果として平均の購入価格が下がります。また、長期投資にもつながる結果となり、この「定時・定額購入」を長期間行うことによって、損失のリスクが抑えられます。

実際の日経平均株価で単純に試算すると
(一括購入の場合)…日経平均の高値であった1989年12月の38,915円で投資をし、2022年12月26,094円で売ったとすると、約33%の損失となります。
(積立投資(定時・定額購入方法)の場合)…同期間に毎月1万円ずつ投資をしたとすると、397万円(397か月)が、683万円と約1.72倍となるという効果があります。



※実例は過去のデータによるものであり、将来の市場環境を保証するものではありません。※配当金・手数料等は考慮していません。

【 資産分散投資 】

投資する先(資産)を分散させる方法です。投資の世界には、「1つのカゴに卵を盛るな」という格言があります。1つのカゴに卵を全部入れておくと、カゴを落としたときに卵が全部割れてしまうので、あらかじめ複数のカゴに分けておくことで、リスクを最小限に抑えようという考え方です。

1つのカゴに盛ると
落とした時
全部割れる。



「長期・積立・分散」投資は、どれか一つではなく、すべて併せて行うことが大切です。
NISAでは、「長期・積立・分散」投資が可能です。
特に、つみたて投資枠では、長期の積立・分散投資に適した一定の株式投資信託のみ購入が可能です。そのため、自動的に「長期・積立・分散」投資が可能です。

証券投資の魅力とリスク



会社は株式を発行して株主をつのり、それで得た資金で事業を拡大、収益の一部を「配当金」として株主に還元します。株主は購入した株式の値上がりによる売買益(キャピタルゲイン)が期待できます。

株式投資の3つの魅力		
会社を応援	社会貢献	株主優待
自分が興味・関心などのある会社に投資することによって資金面で 応援 することができる	環境や社会に配慮した会社に投資することによって 社会貢献活動に参加 できる	商品券や割引券、サービス券などさまざまな 株主優待 が受けられる会社も

株式投資のリスク	
信用リスク	価格変動リスク
購入した会社が経営破たんする可能性	株式の値段(株価)が値下がりする可能性
リスクに対応するには ▶ 長期投資 積立投資 資産分散投資	



投資信託(ファンド)とは、投資家から集めたお金をまとめ、資産運用の専門家が株式や債券などに投資・運用し、その運用の成果として生まれた利益を投資家に還元するという仕組みの金融商品です。運用対象や運用手法により、安全性を重視して運用する投資信託から積極的にリスクを取りつつ収益性を追求する投資信託まで多くの種類があります。

投資信託の3つの魅力		
専門家が運用 してくれる	1,000円程度 の少額から始められる商品も	資産分散投資で リスクを軽減 できる

投資信託のリスク	
信用リスク	価格変動リスク
組み入れた株式・債券の発行体が元本や利息を支払えなくなる可能性	組み入れた株式・債券が値下がりする可能性
リスクに対応するには ▶ 長期投資 積立投資 資産分散投資	

* 外国の株式や債券で運用する投資信託には為替変動リスク等があります。

NISAについて知っておきたいこと



1 NISA口座はどこで作れるの？

NISA口座は、証券会社や銀行などの金融機関で作ることができます。金融機関ごとに取り扱っている金融商品が異なるため注意が必要です。上場株式やETF・REITは証券会社でのみ購入することができます。

証券会社

上場株式

ETF 上場投資信託

株式投資信託

REIT 不動産投資信託

銀行

株式投資信託

2 NISA口座は原則1人1口座しか開設できません。

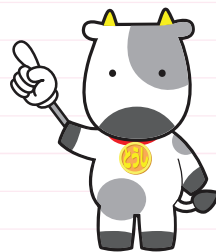
NISA口座は原則1人1口座。NISA口座を開設する金融機関の変更は1年単位でしか行えません(金融機関の変更をした場合には、複数のNISA口座を持つこととなりますが、買付けができるのは各年につき1つのNISA口座だけです)。

3 上場株式の配当金等を非課税とするには、「証券会社で受取る方式(株式数比例配分方式)」を選択していただく必要があります。

NISA口座で保有する上場株式やETF・REITの配当金や分配金を非課税で受け取るためには、証券会社で「株式数比例配分方式」を選択する必要があります。いったん「株式数比例配分方式」を選択されると、同一の証券会社や他の証券会社の特定口座や一般口座で保有されているすべての上場株式の配当金等についても、自動的に「株式数比例配分方式」が選択されます。なお、株式投資信託の分配金は、受取方法を問わず非課税です。

4 NISA口座と特定口座や一般口座との損益通算はできません。

NISA口座における配当金や売買益等は非課税となりますが、その一方で売買損失はないものとされます。特定口座や一般口座で保有する他の上場株式や株式投資信託等の売買益等との損益通算はできません。



証券投資には必ずリスクがありますので、十分に注意しましょう！

NISAについて詳しくは



日本証券業協会
NISA特設サイト
「みんなにいいさ!
NISAがいいさ!!」



2023年までの
NISAとの違いがわかる
「NISA制度!リーフレット」



金融庁
NISA特設サイト

お問い合わせ

NISA相談コールセンター

証券会社で ニーサでとうし



0570-023-104

受付時間…平日9:00~17:00 ※祝日及び年末年始を除きます。



日本証券業協会
Japan Securities Dealers Association